

デジタルキャンプ

初の試み

@多賀城



①サポートチームAとしてデジタルキャンプに参加 ②ファシリテーターの佐藤正文さん
③Zoomを使って対話する深谷市長 ④アンケートの1つ「多賀城創建1300年って知ってる？」
⑤リアルタイムで行ったアンケート「多賀城のイメージ」

6月10日、オンラインミーティングに18歳〜29歳までの32人が集まりました。

T-FLAGSのキックオフとなる今回は、「デジタルキャンプ@多賀城」と題して、開催「Zoom」を活用した市長との意見交換は、初の試みとなります！

深谷市長が語る「人生の流儀」から会話はスタート。深谷市長ならではの人生観に、若い皆さんから感嘆の声があがる場面も。

若い皆さんの語る「このまちのこと」「このまちでやりたいこと」について、深谷市長も耳を傾けました。

新型コロナウイルス感染症の影響がまだ続く中ですが、「人と人との触れ合い」は、オンラインでもできたようです。

キャンプの朝に感じられるような、皆さんの心には吹いたようでした。



T-FLAGS(多賀城の若者 未来創造事業)

デジタルに
キャンプを

「ポランティアや社会貢献に関心があります！救いを求める人の手伝いをしたい。デジタルが苦手な高齢者にインターネットの使い方を教えるなどは、どうだろう」

「大学生と飲食店とのマッチングを学生主体で企画し、学生主体で新メニュー開発なんてどうだろう」

「若者が集まる場所づくりを！東北学院大学がキャンパス移転しても若者が集まれるように」

「多賀城の観光の起点を、駅から考えてみては？歴史観光をしたいと思う人が、国府多賀城駅ではなく多賀城駅に行ってしまうこともあるようです。多賀城跡周辺を訪ねるなら『国府多賀城駅』というPRや、多賀城駅で降りたとしても歴史観光を楽しめるルートとアクセスを考えるのは面白い」

若者たちの
まちへのおもい

T「Tagajo Future Local Activation Group Session」 -FLAGS(多賀城の若者 未来創造事業)って？

多様な感性や価値観、豊かな創造力を活かせるようにスタートしました。交流の場を通して、共に多賀城を創造するためのアイデアを出し合い、実践につなげることを目指しています。

「T-FLAGS」の愛称は、第六次多賀城市総合計画将来都市像ロゴマーク「たがじょうばた」を旗になぞらえて、多賀城の未来を身近に考えたり、実践する場(活動)という意味が込められています。

将来都市像ロゴマーク「たがじょうばた」って？

第六次多賀城市総合計画で目指す姿「日々のよろこびふくらむまち史都多賀城」を「旗」に見立てて、そこに向かって進んでいこう！という思いが込められています。

たがじょうばたが幸せの風にはためきます。
形は笑顔の横顔を、色は多賀城南門の蘇芳(すおう)色をイメージしています。





VOICE

参加者アンケートから

“自分以外の若い人たちが多賀城に関する意見を聞くことができ楽しかったです。チャットも活発に意見が出ていて、コメントしやすい環境でした。参加できて、良かったです。ありがとうございました。”

“市長とお話をする貴重な機会ありがとうございます。市長とお話できて嬉しかったです。多賀城市について考え、行動している同年代の人たちを見て、刺激を受けました。改めて市民としてどんなことができるのか考えるきっかけになりました。”

“楽しくお話ができ、時間がたつのがあっという間でした。ありがとうございます！就活やオンライン授業という中で刺激がなかったので、楽しい時間を過ごせ、モチベーションも上がりました！また参加したいと思いません。”

“どんなまちづくりをしたいのか伝わってきた、面白かった。まちづくりに対して考えるきっかけになった気がする。”

市長感想

若い皆さんの感性豊かで創造的な考えや意見、そして行動しようという気概に大変刺激を受けました！皆さんの行動を市としても後押ししたいので、これからもいろいろ教えてください。

令和6年に多賀城は創建1300年を迎え、南門の復元をはじめ、様々な関連事業を実施していく予定です。
 次回のT-FLAGSでは、多賀城創建1300年について若いみんなの意見を伺いたいと思っています。
 是非また参加してください！



一人の幸せが自分の幸せ

多賀城市長 深谷 晃祐

まちづくりと対話と

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市民の皆さんと直接お話しする機会が少なくなっていますが、こうしてZoomミーティングというデジタルな環境下とはいえ、機会が持てて、そうしてこんなにも多くの若い人たちが参加いただいたことに本当に嬉しく思います。

仕事の流儀

仕事の流儀としては「人の幸せが自分の幸せ」ということがあります。自分の笑顔は、人を笑顔にできると信じています。

「仕事のゴールに向かい笑顔で仕事をする。」大工や銀座でパーティー、六本木のバーではDJと様々な仕事を経験してきました。そんな中で共通していることは、目の前にあることを楽しむこと。常に幸せや充実感を100%目指して、生きてきました。

何か頼みごとをされたとき、断らずすぐ行動できる人になりたいと思っていました。就職しませんでした。26歳で市議会議員選挙に出馬し、そんなことを続けていたら、40歳で市長をやらせていただいています。ここまで一貫して市民の皆さんのために何ができるのかと常に考え続け、行動しています。

笑顔あふれる市民共創のまちづくりへ

これからのまちづくりは、市民の皆さんが主体的に関わっていくことがより一層重要となります。このT-FLAGSも複数回にわたって実施しますが、この事業だけに限らず、今後もさまざまな形で話を伺いながら、持続可能なまちづくりを共に進めていきたいと思っています。

笑顔あふれる日本一住みやすいまち多賀城を、皆さんと一緒につくっていきましょう！

